

ご近所のお医者さん

□
712
□

ひぐち小児科院長 樋口万緑さん 一枚方市

僕が医者になった理由

開業して14年目となりました。僕の人生に大きな影響を与えた漫画があります。漫画の神様である手塚治虫先生の3作です。母が古本で買ってきた「火の鳥」全巻を何度も読み、近所の歯医者さんにあった「ブラック・ジャック」でこんなことが

漫画で描けるのかと感心し、小学校の

図書館で読んだ「ブッダ」で輪廻転生という言葉を知らないいろいろなことを手塚先生の漫画から教わりました。

中学生の頃には真剣に「手塚先生のようになり、かつ漫画家を目指す

す」と考えていました。高校生になりまずは芸術大学に入ればよいのではと結論を出し、現役生の時は芸大を受験しました。結果は不合格でしたが得るものがありました。試験会場で周囲との圧倒的な実力差を前に(芸大受験は

よい漫画を描くのかと思ったら、入部したバレーボール部が楽しく、また大学での授業も興味深く、いつしか真剣に医者の勉強をしていました。

結局、医学生を卒業し卒業後は小児科に入局しました。小児科を選択したのも手塚先生の描く可愛らしいキャラクターが好きだったことも影響しているのかもしれませんが。

楽観的に、かつ真剣に

人生には転機となる時期があります。僕の場合、僕の場合

周囲の受験生の絵が見えるのです。これはあかん、あと何年絵の勉強をしても芸大に合格する保証はないな」とショックを受け、次の1年間は通常の受験勉強をして医学部を目指すほうが確実と考えるに至ったのです。

浪人決定後は絵を描かず受験勉強をしました。結果は運良く1年で地元の奈良県立医科大学に合格できました。本校は手塚先生が学位を取った大学であり大変感慨深いものがありました。い

は、はたから見たら奇妙な行動を取っていたと思います。しかし当の本人は大真面目であり、その都度眼前の出来事に真剣にぶつかれば進むべき道がのずと見えてきた気がします。これもまた手塚先生に教えていただいた言葉ですが「人生は楽観的に、かつ真剣に」を座右の銘としながらこれからも頑張っていきたいと思っています。進路に悩める若者諸氏の参考に少しでもなれば幸いです。

